

# 形成外科ってなあに

形成外科 横田 和典

今年度から公立世羅中央病院では形成外科という診療科を開設いたしました。形成外科とはどういう診療科なのか耳慣れない方も多いと思いますのでご紹介したいと思います。

皆さんがよくご存じの内科や外科、産婦人科、耳鼻咽喉科といった診療科ではどういう疾患を患ったとき受診すればよいか、あるいは身体のどこに不調があったとき受診すればよいかイメージがわきやすいと思います。形成外科では特定の臓器や部位を守備範囲にしていません。

では、身体のどのような状態を診療している診療科なのか。いうなれば身体のあらゆる部位の見た目の違いを対象としています。生まれながらにして「大きなあざがある」「指の数が違う」など外から見てもその違いが判る特徴は形成外科の対象となります。また「外傷」や「やけど」など表面に現れる創傷、またはその傷跡も診療します。がんやその他の疾患を治療するのに身体の一部を失ったとき、それを再建するのも形成外科の仕事です。また、病気ではありませんが「まぶたを二重にしたい」「小さなバストを大きくしたい」といった美容上の悩みを解消するのも広い意味では形成外科の仕事です。

日本形成外科学会のホームページでは形成外科の紹介文として「形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、みなさまの生活の質 "Quality of Life" の向上に貢献する、外科系の専門領域です。」と記しています。

医療は、「命を救う」ことを目的とした分野がまず発達してきました。この点は理解しやすいところです。しかし、命が助かれば人間らしい生き方ができなくてもよいというものではありません。そこで「整形外科」や「眼科」といった人間の機能を回復、維持するための学問が発達してきたのです。では、それだけでよいでしょうか、人は他の人と交わって社会を形成し、他の人とともに生きることによって豊かで幸せな生活ができます。「見た目」を治す診療科は医学分野の中で軽く見られがちですが、病気が治れば人がすぐ社会に復帰できるものではありません。形成外科は医療技術を通して病気だった人や障害を持つ人を社会に適合させる分野だと考えます。

少しはイメージがわいてきたでしょうか。「わかってきたような気がするけどまだどんな時受診して良いかわからない。」といったところではないでしょうか。それでよいと思います。皆さんが「この病気だと形成外科にかかればよい。」とわかるにはまだまだ形成外科はなじみのない分野でしょう。公立世羅中央病院を受診した際、診察した医師が「この患者さんは形成外科医が診るとより良い診療になる」と判断されたときご案内いただけるはずです。

その際にはどうぞよろしく願いいたします。